

「育児の悩みを語り合うことで、子育てママの孤独感を和らげたい」と全国に設置され始めた子育て支援施設「つどいの広場」。県内には12か所（2008年3月現在）あり、各施設が地域事情にあわせた独自のプログラムを用意している。今年4月、市内の子育てを支援するNPO法人に運営を委託した草津市と、05年から開設している高島市でも、大勢の親子連れが利用している。（川端啓子、井上まゆ子）

子育て支援施設
つどいの広場

知識共有、交流で

びとにいじやないよ

高島

なないろ保育園内

高島市ではなないろ保育園（同市今津町福岡）内に開設。それまで月2、3回、未就園児を持つ親子に開放していたが、保育士が常駐し、環境が整ったことで「広場」とすることにした。ベビーマッサージ教室や栄養相談の日を独自に設けるなど、子どもを遊ばせながら子育てに役立つ知識も得ることができるよう、保護者の便宜を図った。

保育士が上の子を見てくれている間に、下の幼子とゆっくりかわれるうえ、整備された砂場もあり、毎日のように通う親子も多い。母親からの「体を動かしたい」と

▼保育士と手遊びを楽しむ親子



保育士が常駐 栄養相談も

いう要望に応え、今年エアロビクス教室の開催なども計画している。

保育士の山本敏子さん(47)は

「気兼ねなく来ていただき、他の方との交流を楽しんでください。元気な子育てを応援します」と話している。



地域事情に合わせて独自プログラム

草津

保健センター内

草津市では、保健センター13階のプレールーム約110平方メートルと1120平方メートルのテラスを活用し、昨年12月に開設。地元に着した民間団体が運営するため、地域の子育て経験者をサポーターに取り込んだり、環境・まちづくり団体と連携したりしているのが特徴だ。子育て支援課副参事の上飯淳一郎さん(55)は「乳幼児検診などを行っ

経験者や環境団体と連携

ている建物なので、気軽に来てもらえると考えました」と話す。

姫野里奈さん(29)（同市野村）は保健師に勧められ、週3回ほど施設を訪れる。「朝ぐずっていた長男（1歳1か月）も、ここに来ると機嫌良く遊んでくれる」とほっとした表情を見せ、「親子でストレス解消しています」と笑う。

運営するNPO法人子どもネットワークセンター（天宮村事務局長の辻充子さん(52)）は「良い親子関係を築けるためのサポートを心がけたい」と話している。



メモ 「つどいの広場」は全国で約700か所開設。主に3歳未満の子どもとその家族が対象で、予約や申し込みをしなくても、自由に利用できる。県内では、保育園の空きスペースやショッピングセンターの空き店舗など、親子連れが気軽に出入りできる場所に設置。各施設では独自にイベントや企画を行い、子育てを支援している。

テラスには砂場も設置され衛生的なので、安心と母親に好評。暖かい日には指定で遊ぶ子もいるという